

お茶の水女子大学附属学校園での実践を基にした 実践事例報告

1. 実践した学校園・授業者：

国立大学法人 宮崎大学教育学部附属中学校・尾関信一

2. 学年・教科等・単元等：中学校第2学年・数学科・「確率」

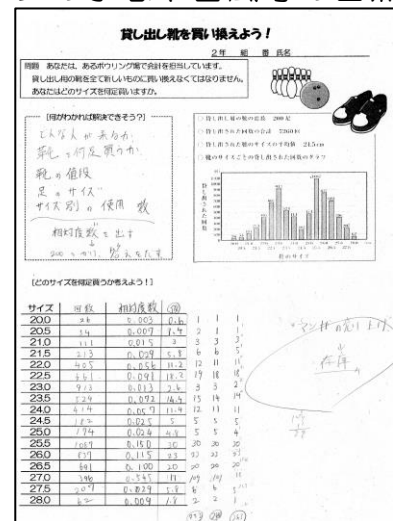
3. 基にした実践の学校園：お茶の水女子大学附属中学校

4. 基にした実践：「貸し出し靴を買い換えよう」

〔 宮崎県中学校数学部会理事会 研究授業（2018年12月3日） 〕

5. 実践の概要

第2学年「確率」の4時間目として本実践に取り組んだ。前時までに、2枚の硬貨がどのような出方をするか相対度数の変化に着目しながら多数回の実験を行い、確率の意味について学ぶ場を設けた。本実践については、「どのように貸し靴の数を求めればよいか」を個人で考察する場を設け、班で求め方を確認した。また、身近な事象と関連付けながら予測的分析を考察できるよう、まとめとして「この考え方が今後どのような場面で生かせそうか」について書かせた。テレビのジャンケンの予想や台風等の自然災害の予報、サッカーのPKを蹴る方向などの意見が出てきた。



6. 実践してみた感想など

本実践を通して、生徒が意欲的に情報を確かめる姿、班での考え方を述べ合い協働的に問題解決に取り組む姿、課題を通して感じたことを伝え合う姿などが見られた。特設の時間として1時間で行った為、活動に十分な時間をかけられなかった。今後は、計画的に本実践を位置づけていきたい。また、学んだことを自由研究等の個人研究で活用できるよう長期休業前に本実践を行うことで、「D データの活用」領域の深化が図られるのではと考える。